

「始業式で話したこと」

令和5年4月12日

ロシアのウクライナ侵攻から1年が過ぎ、未だ解決の糸口が見つからないのが現状です。その間、ロシアとウクライナで本当に多くの人の命が失われていくことでしょう。

私には、忘れることができないニュースが侵攻当初に流れました。臨月まじかの病院に入院しているお母さんが砲撃にあい命を失い、お腹の中の赤ちゃんも助かることができず死んでしまった。その赤ちゃんは、お母さんのお腹の中で命を宿しただけで、この世を見ることもなく命を失いました。

世界には戦争や地震・津波などの大災害により、生きたくても生きることができない「命」があること。自分の意志とは関係なく奪われる「命」があることを始業式で伝えたのです。

このような話に触れながら、私は、子ども達に次の質問をしました。「皆さんは、自分の命を自分で大切にしていますか？」と。「しているよ」とつぶやく子もいましたが、きょとんとしている子もいました。そこで、言葉を代えて次のように質問しました。

「あなたは、自分を大切にしていますか？」「自分で、自分のことを大切にしていますか？」と。

自分を自分で大切にすることは、逆に言えば、自分で自分のことを危ない目や危険な状況にさらしていないかということです。例えば、車の行きかう道路で、自転車のスピードを出し過ぎて乗っていないか。あるいは、海などの危険な場所に一人で行って、自分を危険な目にあわせていないかということです。

次のようなことも「自分を大切にしていない」こととして話をしました。勉強でも、スポーツでもお掃除でも、本当はもう少し頑張れば、できるようになるのに、「面倒くさい」からとか、「難儀だから」とかで、本当の自分の力を引き出しきれていないことも、自分を大切にしていないのだとお話しました。

どこまで、子ども達に伝わったかは分かりませんが、私は、与那原東小学校の子ども達が、自分のことを大切にし、それと同じくらい周りの人を大切にできる人に育ててほしいと思います。

自分の人生を、自分を大切にし、他者を尊重しながら、自分が主人公の人生を歩んでほしいと願っています。そのような子ども達の育ちのためには、私達、大人の支えが必要になってきます。子ども達の支えに、私達はなりましょう。